

## 変革の時代



日本赤十字社診療放射線技師会  
会長 荒井 一正

時を超えて、我々は共に歩んできた歴史の重みを感じる日を迎えました。昭和28年11月15日、全日赤エックス線技師会が発足し、これまでの70年間にわたり、技師仲間とともに多くの瞬間を共有してまいりました。この節目の年に、現代における医療のチーム医療の大切さを考えながら、歴史を振り返りつつ未来への展望を考えたいと思います。

過去の会誌を振り返ると昭和26年頃、日赤技師との横の連絡が始まり、本社衛生部のご指導を受けながら、数度の準備会を経て昭和29年3月31日には全日本エックス線技師会誌が発行されています。日本赤十字社診療放射線技師会 発足当時は、技師法の制定や法改正、学問としての発展など、医療業界での診療放射線技師の立ち位置は決して恵まれた状態ではありません。先輩方の努力の成果として今日の日本赤十字社診療放射線技師会が築かれています。

70年という区切りの年に、我々は現状の立場を担い、後輩に何を残し、未来へ何を託すかを考えねばなりません。これからますます重要性を増すチーム医療において、タスクシェア・シフトの取り組みは重要な項目のひとつです。会長としての良い伝統を踏襲しながら、新たな取り組みや医療の改革に、会員一同が団結して未来につなげていくことが求められます。

過去10年は医療変革の時代であり、それを支えた歴代の会長や役員に敬意を表します。特に医療の進歩は我々にとっても大きな変革期であり、これからも未来を見据えた研鑽が欠かせません。現代ではAIの発展により画像診断がAI診断で可能になりつつあります。我々も常に自己研鑽に励み、常に新しい技術を習得していないと時代に取り残される危機を感じます。このため70周年を機に、さらに会員に対して情報を発信し続ける覚悟を新たに感じます。

赤十字での診療放射線技師として、創立70年の節目に携われたことは幸運です。これからも本会の発展に貢献し、未来に繋がる足跡を残していきたいと思っております。日本赤十字社診療放射線技師会が会員の皆様に貢献できるように発展し、新たな時代の到来に心から期待しています。